

【はじめに】

令和 7 年 1 月 18 日（土）、19 日（日）、25 日（土）、26 日（日）、2 月 1 日（土）の日程で千葉県高等学校新人体育大会サッカー大会女子の部が行われた。1、2 年生での新チームとなった 21 チーム（単独チーム 17 チーム、合同チーム 4 チーム）が、千葉県の頂点を目指してトーナメント方式で試合を行った。

ベスト 4 進出校は流経大柏、暁星国際、八千代松陰、市立船橋の 4 校で、準決勝が重兵衛 SF、決勝・3 位決定戦が八幡球技場にて行われた。優勝が暁星国際、準優勝が流経大柏、第 3 位が市立船橋という結果にて、令和 6 年度千葉県新人戦の幕を閉じた。ベスト 4、ベスト 8 進出校は令和 7 年 4 月 26 日（土）から行われる千葉県高等学校総合体育大会にシードされる。

【今大会を振り返って】

今大会のベスト 8 は、公立 3 校（市立船橋・市立柏・幕張総合）・私立 5 校（暁星国際・流経大柏・八千代松陰・拓大紅陵・千葉明德）である。次年度は暁星国際が関東リーグ 1 部、市立船橋が関東リーグ 2 部、拓大紅陵が千葉県 1 部リーグに昇格予定であり、昨年度から力を付けてきた学校が更に力を伸ばし、勢いを持って勝ち上がったといえる。また準決勝は流経大柏対八千代松陰、暁星国際対市立船橋となり、結果的には関東リーグ所属の 2 校が勝ち上がったが、拮抗した見応えのある好ゲームであった。

準決勝・決勝・3 位決定戦の 4 試合では合計 12 得点（流経大柏 1、暁星国際 7、市立船橋 3、八千代松陰 1）がうまれた。攻撃面において、個々の技術力の高さをベースとして、キックの精度や縦への突破力といった個性を発揮する選手が多い印象であった。特に優勝した暁星国際は選手一人ひとりの身体能力が高く、攻守において隙のないチームであり、総合力の高さをうかがわせた。惜しくも第 2 位となった流経大柏も新チームとなって日が浅い中、チームとしての戦い方が全体で共有できており、今後の更なる成熟が期待できる。第 3 位となった市立船橋は技術力が高く、立ち位置やフォーメーションの細部にも丁寧なこだわりが感じられた。

今年度より、全日本高等学校女子サッカー選手権大会への出場枠が 1 チームとなったことで、選手権予選は熾烈を極める争いとなった。今後も関東リーグ、県リーグを通じて千葉県内の各チームが切磋琢磨することで、更に千葉県の女子サッカーは発展し力を付けていくであろう。千葉県で頂点に立つことは容易ではなくなってきており、次年度も更に激しい競争が予想される。

【大会運営について】

今大会は天候不良の影響もなく予定通りの日程で行うことができた。決勝・3 位決定戦は多くの保護者や関係者の方々、卒業する 3 年生、中学生が見守る中で、見応えのある好ゲームを展開できたことは特筆に値する。大会中にはプレーでの接触からいくつかの事故が起こってしまったが、森委員長・各会場主任を中心とした迅速な対応で事なきを得た。これも大会の運営に携わっていただいた全ての方々のお力によるものである。皆様方に感謝の意を表すとともに、優勝した暁星国際の栄誉をたたえて、令和 6 年度千葉県高等学校新人体育大会サッカー大会女子の部の総評とさせていただきます。